

## 事後評価結果

### <総合評価結果>

評価	総合評価基準	件数
S	計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。	4件
A	計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。	15件
B	概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。	7件
C	計画に沿った取組が行われておらず、十分な成果が得られていないと言えないことから、本事業の目的を達成できなかったと評価する。	0件

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	1
大 学 名	東京医科歯科大学		
取 組 名 称	1-(1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成		
領 域	医療の質管理領域		
事 業 名 称	P D C A 医療クオリティマネージャー養成		
事 業 推 進 責 任 者	東京医科歯科大学長 吉澤 靖之		
取 組 の 概 要			
<p>我が国での安全管理・感染制御を含む医療の質の体系的な評価と確保を担える人材が極めて少ないこと及び医療機能高度化を支える病院組織マネジメントが確立されていない現状を改善することが急務である。そこで本プログラムにおいて、我が国の高度急性期病院における医療の質と安全の評価と確保及び病院機能の高度化に相応した病院組織マネジメントを担う人材の養成を目指す。</p> <p>レセプト、DPCデータ等から求められる臨床指標を用いた医療の質及び安全の評価とそれに基づく医療の質保証プログラムであるP D C Aの実行、管理に必要なデータ分析力、実行力を持つとともに、これらの質保証プログラムの実践を病院機能の更なる高度化及び機能的な組織間連携の増強につなげて、病院組織マネジメント改革を実現するリーダーシップを発揮できる人材の養成を目標とする。</p>			
事後評価結果			
<p>（総合評価）B</p> <p>概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等</p>			
<p>○実際のデータを使った演習を重視し、受講生に様々な医療の実態を可視化できる能力を身に付けさせ、様々なアプリケーションツールを使って効率的に分析できるスキルを獲得させた点が評価できる。</p> <p>○臨床指標の収集と分析を主軸としたプログラムを作成し、理解しやすいテキストの作成などの取組は評価できる。</p> <p>◇医師の受講実績の向上や受講者の適切な選定に関する指摘への対応が不十分であり、結果として医師の受講実績や学外からの参加が乏しいことは残念である。</p> <p>◇他大学等への事業の普及・促進に向けて、シンポジウムの積極的な開催のみでは不十分であり、波及効果があまり見られない点は残念である。</p> <p>◇履修後の能力に関する客観的評価方法が設定されていないため、今後は客観的評価法を導入し、履修者・講師の双方が客観的評価を共有し、臨床現場で発揮できるコンピテンシーを獲得できる教育プログラムの構築が望まれる。</p> <p>◇履修生の業績等について追跡調査を行い、本プログラムの長期的な効果を測定することで、有用性を示すとともにロールモデルを提示することが期待される。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）  
取組概要及び事後評価結果

		整理番号	2
大 学 名	名古屋大学		
取 組 名 称	1-(1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成		
領 域	医療の質管理領域		
事 業 名 称	明日の医療の質向上をリードする医師養成		
事 業 推 進 責 任 者	名古屋大学大学院医学系研究科長 門松 健治		
取 組 の 概 要			
<p>附属病院内に、①医療の質向上と患者安全を担う医師養成事業と、②履修者の所属医療機関をつなぐ人財ハブ事業を担うセンターを設置する。</p> <p>教育プログラム（140時間の講義、実習）を作成し、受講者の確保、管理、履修認定などを行う。医師養成は、附属病院内の医療基盤部門（医療の質・安全管理部、中央感染制御部、メディカルITセンター、先端医療・臨床研究支援センター、卒後臨床研修・キャリア形成支援センター）が連携、協働する。質管理教育に関しては、トヨタグループ、中部品質管理協会と提携して行う。現場の医療者に対応できるよう、遠隔受講システムを導入する。</p> <p>履修者（受講生）が勤務する施設の基盤部門と実務を共有し、業務への助言や危機管理相談等を可能とする遠隔会議環境を整え、履修者のキャリア支援など、人財ハブセンターとしての機能を拡張していく。</p>			
事後評価結果			
<p>（総合評価）A</p> <p>計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>			
推進委員会からのコメント      ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等			
<p>○討論型中心のプログラムで他にはない卓越した内容であり、特に質管理では一般的概念にとどまらず、産業界の質管理・経営分析を取り入れた秀逸な内容である。</p> <p>○段階的な達成度評価（ルーブリック）を履修前後で行うことにより、履修者のコンピテンシーを履修生・指導者の両方で定量的に評価可能にし、それに基づくプログラム改変を行っている点が評価できる。</p> <p>○人財ハブセンターをたちあげ、プログラム終了後も修了者が相談できる体制を構築することで、効果を一過性にしないための取組が秀でている。</p> <p>◇本事業で構築した教育プログラムを発展的に改変し、最高質安全管理者の養成がなされることに期待したい。</p> <p>◇受講期間中だけでなく、修了者が自施設で新しい取組を行えているか継続して評価を行うことが求められる。</p> <p>◇本プログラムを受講した医師が各地でマネジメントの先導になっていく将来が楽しみであり、修了生を教員として起用していくことにより、新たな展開を拡大させていくことを期待する。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

整理番号	3
------	---

大 学 名	新潟大学
取 組 名 称	1-(1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成
領 域	災害医療領域
事 業 名 称	発災～復興まで支援する災害医療人材の養成
事 業 推 進 責 任 者	新潟大学大学院医歯学総合研究科新潟地域医療学講座特任教授 高橋 昌
取 組 の 概 要	
<p>本プログラムは、新潟大学災害医療教育センターを中心に、新潟医療人育成センターと連携して実施する。全国で養成の必要性が叫ばれている高度災害医療人材、すなわち「超急性期から亜急性期、慢性期、復興期まで災害医療の全時相を熟知」し、医療職種はもちろん、他職種・行政機関とも組織横断的に連携して「避けられる災害死」「災害関連健康被害」を最小限に食い止めるマネジメント力を有する次世代高度災害医療人材養成プログラムを実施する。</p> <p>対象者は「初期研修修了後の医師」を対象としたコースと、「他職種（医療従事者、行政担当者）」を対象とするコースを設定し、両コースに共通のコーディネート研修を設定し、組織横断的連携体制の構築を学ぶ。国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センターとも連携し、平時の備えから実践まで全国地域のリーダーとなる次世代高度災害医療人材を養成、併せて教育カリキュラムの普及を目指す。</p>	
事後評価結果	
<p>(総合評価) A 計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>	
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等</p>	
<p>○受入目標を上回る実績を挙げており、プログラム修了者は国内のみならず国際緊急援助隊医療チームの一員として海外で活動するなど次世代高度医療人材が養成されていることは評価できる。</p> <p>○e-learning システム及びコンテンツが他機関での研修における事前学習で活用されていることは評価できる。</p> <p>○当初予定になかった大学院修士課程において大学院生を受入れ、国内災害の情報収集・研究を実施した点は評価できる。</p> <p>◇今後の事業継続にあたって、それぞれの職種の専門性を多職種連携の中でどのように活かしていくのかという視点でのコンテンツの充実が課題である。</p> <p>◇人材は育ってきているが、実践でどれだけ能力を発揮できるか評価する必要がある、シミュレーションを取り入れた判断能力を問う評価方法があっても良いのではないか。</p> <p>◇新潟中越沖地震等の経験値も生かし、今後は社会人大学院や大学学部教育、高校生教育、社会人教育などでも使用できる養成プログラムの開発を期待する。</p> <p>◇海外との人材交流を行うなど、国内にとどまらず国際的に活躍できる人材の養成が望まれる。</p>	

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	4
大 学 名	近畿大学（京都大学・大阪市立大学・関西医科大学・旭川医科大学） 計5大学		
取 組 名 称	1－(1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成		
領 域	災害医療領域		
事 業 名 称	災害医療のメディカルディレクター養成		
事 業 推 進 責 任 者	近畿大学医学部主任教授 平出 敦		
取 組 の 概 要			
<p>我が国では災害医療に多角的な視点から対応できるメディカルディレクターの人材養成が特に不十分である。その結果、大災害時には被災地で地域全体の医療の流れを指揮する機能の担い手がおらず混乱が生ずる。嵐の後はその種類の災害に備えが集中するが、異なるタイプの災害には備えができていないという歴史を繰り返している。この事業では平時から救急医療に関する疫学的分析等を通じて、地域の特徴や問題点を明らかにして、種類の異なる災害に対して医療ニーズを把握して医療資源の配分や環境整備がマネージできる人材を継続的に養成するものである。同時に、それを支援する人材も合わせて養成する。災害医療の多様性を考慮して、このような人材開発を、異なる使命をもった大学や、国情の異なる複数の国の間で、共同で推進するものであり、プレホスピタルの臨床研究で連携が進んでいる各大学やアジア諸国とのリンクを生かして進めるものである。</p>			
事後評価結果			
<p>(総合評価) S 計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等</p>			
<p>○医学部、薬学部において、正式なカリキュラム内に災害医療の授業を導入するなど、卒前教育に広げた上で、学部横断型の取組が実施されたことは評価できる。</p> <p>○他大学や他機関の卒前教育や生涯教育コースにおいて本事業の成果を活用した取組が複数実施されていることは評価できる。</p> <p>○補助期間終了後も大学履修証明プログラムとして、研究だけでなく教育を推進できる人材としての課題を拡大して継続した取組を実施していることは評価できる。</p> <p>◇国際的なアプローチがなされ、アウトプットを論文として出されていることは評価できるが、国際連携が局所的に留まっている感があるため、さらなる強化が期待される。</p> <p>◇本事業により構築された教育プログラム・コースを補助期間終了後も引き続きプログラムの改善・充実を行いながら実施することが望まれる。</p> <p>◇卒前教育にチーム医療の観点から災害教育を盛り込んだことは、他の医療系大学のモデルとなる試みであり、全国的な流れとなるよう、継続した成果の波及が望まれる。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	5
大 学 名	京都大学		
取 組 名 称	1-(1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成		
領 域	臨床医学・研究領域		
事 業 名 称	京大で臨床研究力／医学教育力を強化する！		
事 業 推 進 責 任 者	京都大学大学院医学研究科長 岩井 一宏		
取 組 の 概 要			
<p>本事業では臨床医の臨床研究デザイン力と臨床医学教育力の開発を目指し、その強化プログラムを構築する。</p> <p>臨床研究分野では、臨床医を対象に、臨床研究デザイン学をはじめ、疫学・統計学・医療倫理・医療経済などのコースを提供する。疾病の診断・治療、患者 QOL など現場の問題解決に直結するエビデンスの創出と共に、臨床研究マインドに基づく観察力と思考力を備えた診療力の高い次世代臨床医を養成する。</p> <p>臨床医学教育分野では、指導医を対象に、医学教育学の主領域であるカリキュラム開発法・教育法・評価法のコースを提供する。医学教育学のエビデンスを引用し、現場の医師との対話を大事にし、ニーズにあった教育環境を構築できる指導医を養成する。</p> <p>両プログラムは組織マネジメント能力の涵養を共通基盤とする。また、診療に従事しながら受講できるよう、遠隔教育と京都大学での参加体験型学習を組み合わせ、電子ポートフォリオによる学習サポートも実施する。</p>			
事後評価結果			
(総合評価) A			
計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等			
<p>○学習支援システム「PandA」と連携した電子ポートフォリオ/学修サポートシステム、web 討論型授業、IT ツールの活用により、プログラムの充実、授業における討論が活性化されたことは評価できる。今後、普及率の高い既存ツールを活用し、全国的な電子ポートフォリオへの開発につながることを期待できる。</p> <p>○修了生が指導補助としてサポートする制度を導入するなど、コース修了後のフォローアップ体制を構築したことや未修了者へのメンタリングシステムを導入したことは評価できる。</p> <p>◇修了目標に対する個々の具体的なコンピテンシーの設定とそれに対する評価が十分とはいえない。</p> <p>◇2つのプログラムがほぼ独立して開催されたことが残念である。2つのプログラムが、何らかの形で有機的に連携されればより魅力ある教育プログラムになったのではないかと思われる。</p> <p>◇同一評価者による経時的な評価について考慮すべきであり、より効果的な外部評価について検討することが望ましい。</p> <p>◇事業終了後の継続について、計画が具体的でなく発展性が乏しい。補助期間で培った指導法、管理能力に加え、学習者からの生の要望などを踏まえて、より魅力ある人材養成プログラムを構築し、魅力ある教育プログラムに育てていただきたい。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	6
大 学 名	琉球大学		
取 組 名 称	1-(1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成		
領 域	臨床医学・研究領域		
事 業 名 称	臨床研究マネジメント人材育成		
事 業 推 進 責 任 者	琉球大学大学院医学研究科教授 植田 真一郎		
取 組 の 概 要			
<p>診療上生じるさまざまな問題の解決には、臨床的疑問に基づいた、真の医師主導型臨床研究の実施が必要である。特に医療の現場で生じる臨床的疑問の解決には、それを適切な研究仮説とすることや、目的に応じた現実的なデザインの選択、研究実施体制の目的に応じた組織運営など特異的なスキルが必要とされるが、それらを備えた人材は不足している。地域医療機関の医師は臨床研究を行いたい意思があっても診療を離れずにスキルを身につける機会は少なく、またスキルを身につけ研究をはじめようとしても研究と診療の両立は容易ではない。特に地域医療機関では研究資金が潤沢ではないため、研究に特化した人材を十分に雇用できず、結局企業治験以外では研究支援体制を十分に組めない。しかし、地域医療の問題解決によるイノベーションの担い手は、地域医療に携わる医師及び他の医療従事者たちであり、患者に近い、診療の現場を反映した臨床研究こそが医療の質を担保する。そして質の高い研究を生み出すにはなによりも医療機関全体で臨床研究をマネジメントすることが必要になる。臨床研究はつまるところ丁寧な診療の蓄積であり、適切に実施されているかどうかのチェックを含めて医療機関全体が診療の一環として多職種連携で取り組まなければならない。</p> <p>本事業はあらたな大学院コース「臨床研究教育管理学」の設置やインテンシブフェローシップ開講、院内の臨床研究教育管理センターの開設による支援により、これらの課題解決を図ろうとするものである。</p>			
事後評価結果			
(総合評価) A			
計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等			
<p>○大学院臨床研究教育管理コース、臨床研究インテンシブフェローシップコースの実施により、多数の地域医療者、他医療職者を受講者として受け入れたことは評価される。</p> <p>○医療者の「学びの場」を提供し、臨床研究中核病院などの指導者の指導、交流による教育システムを構築した点は評価される。</p> <p>◇プログラム修了時までには修得する具体的なアウトカムの設定が明確でなく、信頼性のある教育効果の評価が十分に行われていない。</p> <p>◇外部評価者が1名であり、妥当性・信頼性のある評価には十分ではない。</p> <p>◇限定された教員で事業が実施され、一部の協力大学・関連施設との交流にとどまっていることから、広く事業の周知・普及に努めることが望ましい。</p> <p>◇本事業がより根が深く張るような取組となり、学部学生から大学院生、医師そしてメディカルスタッフに至るまで、臨床研究マインドと技術と倫理を備えた人材となるべく、臨床研究教育の中心となって活動されることを期待する。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）  
取組概要及び事後評価結果

整理番号	7
------	---

大 学 名	金沢大学（富山大学、福井大学、金沢医科大学）計4大学
取 組 名 称	1-(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成
領 域	難治性疾患診断・治療領域（臨床病理を含む）
事 業 名 称	北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
事 業 推 進 責 任 者	金沢大学医薬保健学域長 中村 裕之
取 組 の 概 要	
<p>本プランは北陸の医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）が地域医療機関、研究機関、自治体等と連携して実施する。①本科コース（認知症チーム医療リーダー養成）を中心に、②インテンシブ研修コース（地域認知症専門医師研修）、③スペシャル研修コース（認知症・神経難病の臨床病理研修、地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修など）、及び④スーパーコース（認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育）からなる。本科コースでは、高度の知識・技能を有する認知症チーム医療リーダー医師養成、研修コースでは、地域医療機関を活動拠点とする医師の認知症専門研修（インテンシブ）と認知症・神経難病の臨床・病理研修や地域フィールド研修などの特色のある領域の短期研修（スペシャル）、スーパーコースでは、卒前・卒後一貫教育により高度な研究力を有する認知症スーパープロフェッショナル医養成を行う。</p>	
事後評価結果	
<p>（総合評価）B 概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。</p>	
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等</p>	
<p>○当初は医師のみを対象としていたが、ニーズに合わせて多職種を対象としたe-learning講座を開講し、多数の受講者を受け入れた点は評価できる。 ○他の医療系大学において、本事業で作成されたe-learning教材の活用や講義が実施されていることは評価できる。</p> <p>◇教育プログラム・コースの履修者が受入目標よりも下回っていることに対する対応が不十分である。 ◇認知症医療に対するニーズが高まる中で、補助期間終了後に事業規模が縮小することは残念である。 ◇補助期間終了時に、本科コースにおける修了者が1人もおらず、本事業の成果や効果を図ることが困難である。 ◇医師以外の人材育成については、他大学への波及が見られるが、医師養成においては他大学への波及が不十分である。</p>	

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	8
大 学 名	信州大学（札幌医科大学、千葉大学、東京女子医科大学、京都大学、鳥取大学） 計6大学		
取 組 名 称	1-(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成		
領 域	難治性疾患診断・治療領域（臨床病理を含む）		
事 業 名 称	難病克服！次世代スーパードクターの育成		
事 業 推 進 責 任 者	信州大学医学部特任教授 福嶋 義光		
取 組 の 概 要			
<p>中央診療部門として遺伝子医療部門が設立されており、特色ある遺伝子医療を実践している6大学が連携して、1年間の on the job トレーニングプログラムを開発・実践する。各大学は、本事業の研修を希望する医師（専攻医）を全国公募により、遺伝子医療部門所属の医員として毎年1名、1年間採用する。専攻医は、所属大学遺伝子医療部門で研修を行う以外に、他大学の4週間の研修プログラムに2つ以上参加する。各大学で展開されている特色ある遺伝子医療（適切な遺伝学的検査の実施と遺伝カウンセリング、および遺伝子情報に基づく治療、等）を経験することにより、多様で幅の広い難治性疾患で必要とされるマネジメント能力、すなわちヒトゲノム解析・遺伝学的検査の実施、結果判定、結果告知、遺伝カウンセリング、難病患者支援、難治性疾患治療開発、等の能力を養う。全国遺伝子医療部門連絡会議を通じ、全国的な普及を図る。</p>			
事後評価結果			
（総合評価）A			
計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等			
<p>○大学病院の医員を専攻医として身分保証した上で、オールラウンドの臨床遺伝専門医を養成するシステムを構築したことは評価できる。</p> <p>○当初計画していなかった短期集中コースを各大学に設置し、46名が受講したことは評価できる。</p> <p>◇他大学での4週間の研修プログラムに2回以上参加という目標がだんだん縮小したことは残念である。</p> <p>◇全国遺伝子医療部門連絡会議を通じて成果を上げているが、遺伝子診断部門の整備状況に大学間格差があり、達成状況に差があることは今後の課題である。</p> <p>◇補助期間終了後は、これまでの実績を基に連携校を広げていく計画であり、拡大している遺伝子診療部門の整備充実に対応した計画として、今後期待したい。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	9
大 学 名	熊本大学（長崎大学、岡山大学、金沢大学、新潟大学、千葉大学、京都大学） 計7大学		
取 組 名 称	1-(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成		
領 域	高難度手術領域		
事 業 名 称	国内初の、肝臓移植を担う高度医療人養成		
事 業 推 進 責 任 者	熊本大学病院小児外科・移植外科教授 日比 泰造		
取 組 の 概 要	<p>全国へ普及しうるモデルとして、6大学（千葉、新潟、金沢、岡山、長崎、熊本）が各施設の症例を有効に活用し、相互補完しながら指導的施設（京都大学、国立成育医療研究センター）の協力も得て、肝臓移植外科医の養成を行うことを主目的とする。後期研修医以降の外科医を対象に共通プログラムを設定し、学会時などを利用した講習会、施設間の人的相互交流及びテレビ講義なども利用し、3年間で肝臓移植の理念と手術及び術前後管理の知識と技能を習得させる。</p> <p>同様に不足する病理医やレシピエント移植コーディネーターも、肝臓移植の専門性を重視して養成を図る。</p> <p>この取り組みにより、6大学での肝臓移植外科医の養成とレベルの均てん化をはかり、脳死臓器提供に際してはその摘出互助関係を確立し医師の負担軽減を図る。これが専門医制度につながる養成プログラムとして学会などに認知され、専門医性など安定した養成システムに波及することが期待される。</p>		
事後評価結果	<p>（総合評価）B</p> <p>概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。</p>		
推進委員会からのコメント	○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等		
	<p>○移植件数が伸び悩むなか、動物での実習や海外実習も一部取り入れるなど実習内容を工夫した上で、コーディネーターコースで全ての施設から1名以上の履修生受け入れることができた点は評価できる。</p> <p>○これまで見られなかった、協力大学施設間で参加者を募って移植に係る専門職種を養成するシステムを構築したことは評価できる。</p> <p>○外部評価委員に患者団体の責任者を入れ、患者の視点を取り入れた教育プログラムを実施していることは評価できる。</p> <p>◇教育プログラム・コースの目標達成基準が曖昧であり、教育効果の判定が不明瞭である。</p> <p>◇学会において、本事業内容等周知を行っているが、実際に各大学で取り入れられているかは検証しておらず、また、連携大学内でのみ履修生を受入れており、連携大学以外へ本事業の成果普及・促進が進んでいるとは言い難い。</p> <p>◇新規募集は行わず、履修生への教育を継続しつつ、肝移植学会への事業移譲を検討する予定となっているが、本プログラムの継続性は大変厳しい状況と考えられる。</p> <p>◇一方で、移植医療に係る人材養成プログラムは貴重であり、普遍的なプログラムを構築されるなど日本全体の肝移植医療にも寄与できるよう今後の継続と発展が期待される。</p>		

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	10
大 学 名	慶應義塾大学（東京医科大学、岩手医科大学）計3大学		
取 組 名 称	1-(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成		
領 域	高難度手術領域		
事 業 名 称	領域横断的内視鏡手術エキスパート育成事業		
事 業 推 進 責 任 者	慶應義塾大学医学部長 天谷 雅行		
取 組 の 概 要			
<p>領域横断的な基礎知識と技能を身につけ、プランニングから一貫して安全・確実な手術が可能であり、かつ国際的に活躍できるグローバルな視野を持ったリーダーを育成する。</p> <p>そのため我々は二つのコースを設置し、段階的に高難度手術へ移行するプログラムを構成した。</p> <p>1) Basic トレーニングコースでは、総合大学の長を生かし、理工学部との共同で内視鏡手術機器の特徴と問題点に対する理解を深めた上で、既に稼働している大動物・Cadaver トレーニングを用いた実践的教育プログラムを提供する。更に豊富な症例数を誇る関連施設での実地修練を組み合わせた。</p> <p>2) Advance トレーニングコースでは、豊富な経験と症例を持つ他大学（岩手医科大学）での修練や、世界的リーディング施設での研修（韓国・フランス）及び世界随一の教育プログラム（IRCAD-Taiwan）への参加を盛り込むことで、グローバル・スタンダードを学んだ上で高難度手術を安全かつ高いレベルで施行可能な人材を育成する。</p>			
事後評価結果			
<p>（総合評価） A</p> <p>計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等</p>			
<p>○Advance トレーニングコース修了者が指導者としての職位につき、医師の指導育成に携わるなど一定の教育効果が得られたと評価できる。</p> <p>○事業期間中に NPO 法人を設立し、本事業の継続性について期待が持てる。</p> <p>◇日本内視鏡外科学会の技術認定試験制度合格を目標にしたのは、技術向上において重要で評価できるが、難易度の高い試験ではあるものの合格者が5名にとどまったことは残念である。</p> <p>◇海外と連携機関とのシステムは構築されたが、利用人数が十分ではなく、多数の参加を促すとともに、どう生かしたか検証を行い、更に発展した内容となることが期待される。</p> <p>◇指導者の派遣やテレビ会議の開催等の実績はあるが、連携大学の関わりが不明であり、連携大学と双方向での展開が期待される。</p> <p>◇指導者は広く連携されているものの教育プログラム・コースへの受入れや修了者の就職においては、やや関連施設にとどまるような傾向があり、広い連携体制を構築した上で、全国への模範になるような普遍的なシステムに発展することが望まれる。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	11
大 学 名	筑波大学（東京医科歯科大学）計2大学		
取 組 名 称	1-(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成		
領 域	小児周産期領域		
事 業 名 称	ITを活用した小児周産期の高度医療人養成		
事 業 推 進 責 任 者	筑波大学医学医療系教授 高田 英俊		
取 組 の 概 要			
<p>東京医科歯科大学と筑波大学は共に、産科と小児科の寄付講座を茨城県内に設置し、高速・大容量の情報通信ネットワークによって県内主要病院と結ばれている。本事業ではこの基盤を最大限に活かし、多くの病院で研修中の医師を対象に、体系的な e-Learning 講座とインテンシブコースによる技術指導を行う。将来のキャリアに応じた選択コースにより、①高度医療を担う産婦人科、小児科、小児外科の専門医、②実用化、産業化を見据えた新しい医療技術の開発や医療水準の向上を目指す研究医、③地域で総合的な小児在宅医療を構築できる臨床医の育成を目指す。</p> <p>e-Learning のコンテンツは連携2大学と協力機関が共通のフォーマットに従い、体系的なカリキュラムに基づいて作成し、大学院の単位取得や専門医取得に役立てる。インテンシブコースでは、シミュレーター等を活用して最新医療技術の習得に力点を置き、魅力的な後期研修医教育プログラムとしても活用する。</p>			
事後評価結果			
(総合評価) A			
計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等			
<p>○IT を用いた様々な教育システムが構築され、修了者から新たに14名が教員となるなど小児・周産期医療を担う医療人が効果的に養成されたことは評価できる。</p> <p>○人材育成や育児支援をサポートする成育支援室が附属病院の事業として継続することや本事業で構築した e-learning 教育を両大学の独自事業として実施することは、本事業の継続の観点から評価できる。</p> <p>○茨城県小児在宅医療ネットワークを立ち上げ、多職種を対象とした人材育成がインテンシブコースにおいて積極的に実施されていることは評価できる。</p> <p>◇事業実施以前と比較するなど客観的に評価できる工夫が必要である。</p> <p>◇新たな展開として記載がある、災害時の対応、多職種連携に拡大した教育の実践、適切な労務環境については今後重要な課題であり、ぜひ実践していただきたい。</p> <p>◇5年間の実績と評価を踏まえて問題点を掘り下げ、地域の医療に一層貢献できるよう取り組むことを期待する。</p> <p>◇フォーラム等は多数開催されているが、学内参加者が多くを占めており、更なる外部への成果の普及・促進が望まれる。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）  
取組概要及び事後評価結果

		整理番号	12
大 学 名	鳥取大学（秋田大学、山形大学、大阪市立大学）計4大学		
取 組 名 称	1-(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成		
領 域	小児周産期領域		
事 業 名 称	重症児の在宅支援を担う医師等養成		
事 業 推 進 責 任 者	鳥取大学大学院医学系研究科長 黒沢 洋一		
取 組 の 概 要			
<p>1) 人材育成：小児科医を対象に、重症児診療に必要な高度な医学的知識と診療技能を習得し、多職種・多機関と連携できる人材養成を目的としたプログラムを開設する。また、重症児の院内マネジメントおよび地域の関係機関と連携できる人材（医師やソーシャルワーカー、看護師等）の育成をインテンシブコースにて行う。</p> <p>2) 大学連携：連携大学と分担して大学院教育を行う。各大学の得意分野を生かして高度の知識と技能を習得する。</p> <p>3) ネットワーク化：重症児の在宅支援のために、地域医療機関や福祉事業所（訪問看護やリハビリ、ヘルパー）、行政とネットワークを構築し、重症児の包括的な地域支援を実現する。</p> <p>4) 全国普及：本事業で全国初の重症児の地域連携モデルを4拠点で構築し、そのノウハウを全国に普及させる。本プログラム・コースは公募制とし、育った医師が全国各地で拠点を作り、リーダーとして活躍できることを目指す。</p>			
事後評価結果			
<p>（総合評価）B</p> <p>概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的のある程度は達成できたと評価できる。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等</p>			
<p>○鳥取県における行政、医療機関、医師会、看護協会、患者団体を含めて関係機関会議を開設し、重症児の地域連帯モデル化が加速したことは評価できる。</p> <p>○難病の子どもと家族の地域生活を支援するため、小児在宅ケアができ、関係機関と連携できる人材養成を目的とした事業を日本財団共同プロジェクトにおいて行うことになったことは評価できる。</p> <p>○インテンシブコース修了者が各機関において、重症児ケアを担っていることは評価できる。</p> <p>◇大学院生の受入れ人数が目標に届いておらず、教育プログラム・コースを検証し、受講生にとって魅力的な教育内容とすることが求められる。</p> <p>◇本事業により開発された教育プログラムが全国のモデルとなり、活用されるための工夫が乏しいため、積極的に普及・啓発活動に取り組み、養成を受けた医師が地域で活躍できる工夫、国際的に展開できる努力が望まれる。</p> <p>◇事業の普及・促進に向けた取組が学会発表と論文に限られており、他大学に対する積極的な取組を期待する。</p> <p>◇参加大学の間で院内実務者会議等の開催回数に差があり、連携を深め取組を進めることを期待する。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	13
大 学 名	東京医科歯科大学（東北大学、新潟大学、東京歯科大学、日本歯科大学） 計5大学		
取 組 名 称	1-(3) 健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成		
事 業 名 称	健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム		
事 業 推 進 責 任 者	東京医科歯科大学歯学部長 興地 隆史		
取 組 の 概 要			
<p>本プログラムは、歯学教育分野で先導的な役割を果たしてきた5大学が国立私立の枠を超えてコンソーシアムを形成し、各大学の強みである教育資源を共有・補完することで、健康長寿を育む為のあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療を担う人材養成の実現を目指す。</p> <p>具体的には、各大学が個性を活かした学部学生対象コースを新設し、教育コンテンツを開発、アーカイブ化し、e-Learning や教員の相互乗り入れにより、シームレス且つボーダレスな共同利用を行う。また、シンポジウム、FD 等の共同開催により、学部学生や教員の知識・技能の向上を図り、研修医、大学院生等への卒後教育への波及効果も期待する。更に得られたプロダクト、教育成果をHP、学会等を通じて全国発信・共有化を図り、歯学教育の高度化、標準化を目指す。</p> <p>また、本コースを既存の教育課程に取り込み卒業要件の一部とすることで、上記課題を解決する人材養成を促進する。</p>			
事後評価結果			
(総合評価) A			
計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等			
<p>○歯学教育のスタンダードとなり得る優れた講義と教授陣による教育内容であり、これを国公私立の枠を超えて多施設で共有した点が高く評価できる。</p> <p>○教育資源としての e-learning コンテンツなどの更新・大学間共有を継続する点は高く評価できる。</p> <p>○トライアルとして早い年度に多様な聴講生別に講義を進めた点は評価できる。</p> <p>○事業のブラッシュアップのために様々な取組が実施され、改良・修正が適切に実施された点が評価できる。</p> <p>◇従来の歯学教育の枠を超えるために、医療における歯科医師の役割や展望を受講者に与える内容に進化させることが望まれる。特に、医科歯科連携の捉え方や実施法などに関してさらなる工夫がほしい。</p> <p>◇一部に他領域の関係者が入ってきているものの、歯科完結的な状況を感じ、生活の中での口腔保健の重要性や意味が受講生に伝わらないのではないかと懸念がある。</p> <p>◇他大学の学生に対する授業互換、単位互換を検討するなど大きな視野に立って、取組を実施することが今後期待される。</p> <p>◇岡山大学を中心とした事業との連携を相互に生かし、さらに内容の充実を図ることが望まれる。</p>			

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定分）

取組概要及び事後評価結果

		整理番号	14
大 学 名	岡山大学（北海道大学、金沢大学、大阪大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、昭和大学、日本大学、兵庫医科大学）計11大学		
取 組 名 称	1-(3) 健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成		
事 業 名 称	健康長寿社会を担う歯科医学教育改革		
事 業 推 進 責 任 者	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授 窪木 拓男		
取 組 の 概 要			
<p>実績のある国立大学歯学部と医学部を擁する私立大学歯学部、特色ある医学部歯科口腔外科が協力して、各大学の医療系学部の協力のもと、縦割りを排した新しい次元の医科歯科連携教育や在宅歯科医療学を構築、それを全国レベルで均てん化する。加えて、東京大学 死生学・応用倫理センター、高齢社会総合研究機構の協力のもと死生学や地域包括ケアに関する教育を導入する。また、東京都健康長寿医療センター、国立長寿医療研究センターの協力を得て、認知症等に対する最新の知識と歯科的対応を系統立てて学べる様にする。その結果、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。また、口腔から全身健康に寄与でき、急性期、回復期、維持期、在宅介護現場に対応できる歯科医を育てる。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。</p>			
事後評価結果			
<p>（総合評価）S 計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、◇：改善を要する点、今後の期待等</p>			
<p>○意欲的に医科歯科連携、多職種連携を扱い、従来の歯学教育では達成できない、実用性の高い教育内容であることが評価できる。</p> <p>○広範囲に事業課題を網羅し、受講生に対して体験実績を作るような環境づくりが考慮されていることが評価できる。</p> <p>○医療支援歯学教育改革コースワークの均てん化は計画より早期に実施されており、達成率も高く内容も充実している点が評価できる。</p> <p>◇補助期間終了後に、本事業が持つ電子授業コンテンツを全国の歯学教育機関に提供し、他大学等で教育に活用できるようにする点は今後期待ができる。</p> <p>◇一部コースで計画よりも受け入れ人数が少ないものが見られるが、少々特異なテーマや専門に偏ったテーマであり、学生に対して更なる啓発が必要と思われる。</p> <p>◇歯学部の学生や教員が医学系総合病院において臨床経験を積むような取組や体制が構築されると、より取組が発展するのではないかと。</p> <p>◇東京医科歯科大学を中心とした事業との連携を相互に生かし、さらに内容の充実を図ることが望まれる。</p>			

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：東京医科歯科大学

事業名称：P D C A 医療クオリティマネージャー養成

取組概要：当初設定した教育目標を実現するために、実医療データとPCを用いた能動的・実践的な学習方法を開発した。さらに大学病院と連携した教育体制を実現するため附属病院にクオリティマネジメントセンターを設置し、データ分析と病院マネジメントを教育プログラムと大学病院に還元する仕組みを実現した。大学病院医師を含む47名がプログラムを修了し、病院の管理者的な立場で医療の質改善に取り組んでいる。補助期間終了後も同等の教育プログラムの提供とクオリティマネジメントセンターの活動を継続できる体制を整備し、実践している。

## 当初設定した教育目標

- ① 医療データの収集・分析能力
- ② 質改善プログラムの運用実践能力
- ③ マネジメント力とリーダーシップ

## 本事業のアウトプットと期待される効果

### 本事業のアウトプット

分析力・実践力・リーダーシップを備えた人材として、大学病院医師を含む47名が本事業を修了

### 中期的アウトカム

本事業修了者が、大学病院をはじめとする高機能病院に従事し、医療の質改善プログラム実践と病院マネジメント改革の原動力となることが期待される

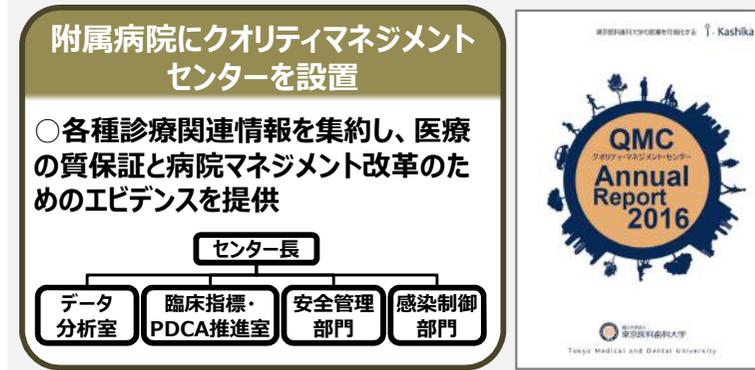
### 期待される社会へ効果

- ・医療を適切に評価する文化の浸透により、品質の高い医療を効率的に提供できる医療提供体制の構築
- ・高齢化が急速に進展する日本および世界各国において、医療の質と安全を科学的に評価、確保する文化を醸成し、生活と健康の改善に寄与

## 開発した教育プログラムの構成（120時間の履修証明プログラム）

データ分析手法の習得	実践的なP D C A の体験学習			大学院MMAコース	ワークショップ
PCを用いて医療実データを使った演習と課題発表を中心とする能動的な学習プログラム (75時間)	質改善 分析演習と 病院実習 (15時間)	安全管理 分析演習と 病院実習 (7.5時間)	感染制御 分析演習と 病院実習 (7.5時間)	【医療の質評価分野】 【安全感染管理分野】 【情報分析分野】 【組織管理分野】 (最大150時間)	成果発表・ 総合討論 (15時間)

## 附属病院との連携体制の構築



- ・国立大学病院初のクオリティマネジメントセンターを設置し、AnnualReportを発行するなど、医療分析とマネジメント改革に直結する医療データを教材として整備する体制を整えた。
- ・有機的な教育プログラムの開発と大学病院マネジメント改革を表裏一体に進めることができた。

## 受講生の課題発表例と授業風景



- ・ほぼ全ての受講生が独力で医療データを分析し、例示したような分析発表資料を作成し、マネジメント改革を提言できる能力を獲得した。
- ・一人一台のPCおよび専用の分析ツールと大学病院の実診療を反映する医療データを提供し、アクティブラーニングの環境を整えることで実践的分析力を養成できた。

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：名古屋大学

事業名称：明日の医療の質向上をリードする医師養成 ～医療基盤を支える医師養成と人財ハブセンター形成～

**取組概要** 実効性のある患者安全・医療の質向上には、①臨床を熟知し課題解決能力に長けた中堅医師の参画、②質管理の視点やスキルを持つ医師の育成が不可欠であるが、これらに専門性を持つ管理者医師はまだ少なく、養成方法も確立していない。そこで、「医療の質向上をリードする医師養成」事業（ASUISHIプロジェクト）を立ち上げ、トヨタ自動車とタイアップし、「患者安全」と「品質管理」を同時に修得できる140時間プログラムを策定、4期、計91名の医師を輩出した。（事業期間2014年9月～2019年3月）

## ①医療の質向上と患者安全を担う医師養成事業

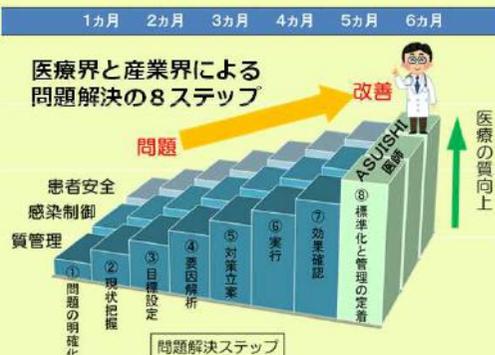


表1. 開講期別、コース別参加者数(n=91)

参加者数 (人)	メインコース	インテンシブコース		総計
		患者安全	感染制御	
第1期	12	3	1	16
第2期	20	2	1	23
第3期	19	5	2	26
第4期	20	4	2	26
合計	71	14	6	91

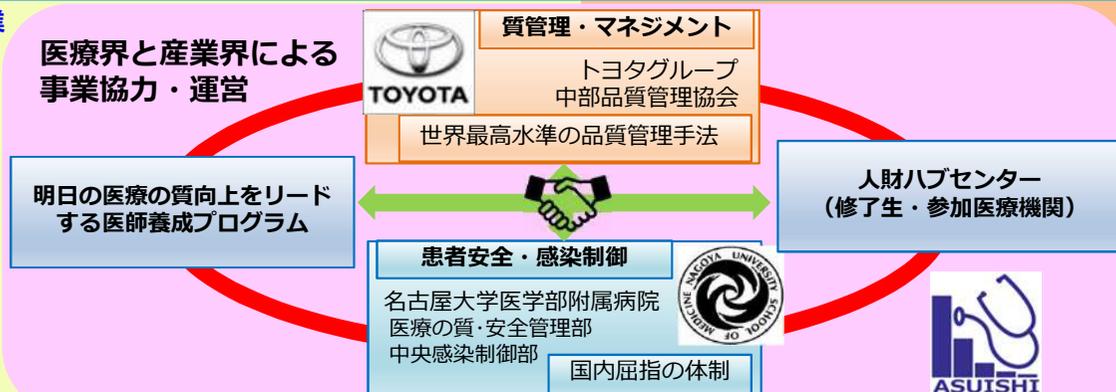
表2. 参加者年齢およびその所属医療機関の病床数

参加者 (n=89)	平均値	最小値	最大値
年齢(歳)	46.5 ± 8.2	30	61
病床数(床)	605 ± 274	115	1,435

表3. 参加者性別(n=89)

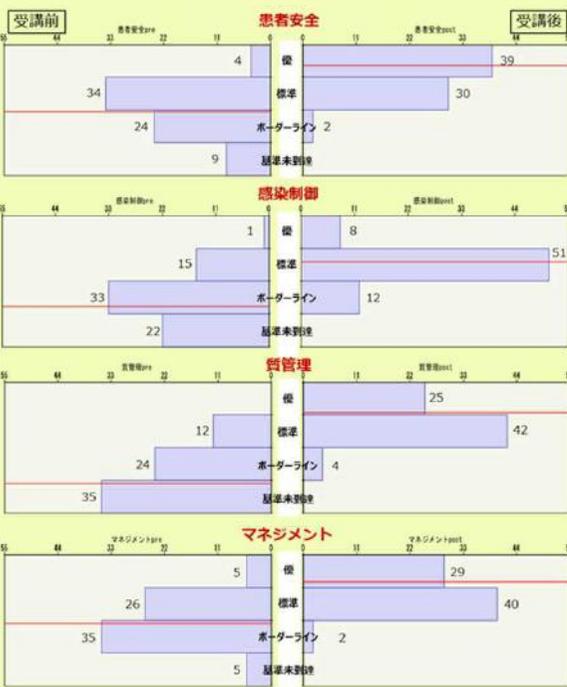
参加者(n=89)	男性	女性
性別	79	10

患者安全・医療の質向上に専門性を持つ医師を輩出  
北海道から鹿児島県まで30都道府県下、  
75施設、**91名**の医師の育成を行った。



## ②修了生の所属医療機関をつなぐ人財ハブ事業

- 修了生への教育支援
- 危機管理相談
- 事例検討会
- ベンチマーキング
- データベース共有
- コミュニティ提供
- 修了生による活動
- 情報交換
- ネットワーク活動



ルーブリック自己評価：全ての項目が受講前に比べ向上

### (1)修了生への教育支援活動：

- 医療の質・安全学会学術集会 60演題
- 日本感染症学会西日本地方会学術集会 3演題
- 日本医療マネジメント学会学術集会 6演題
- International Forum on QUALITY & SAFETY in Healthcare 9演題
- ASUISHI教員による発表やシンポジウム
- 名古屋大学医学部附属病院での実務会議を公開し、延べ121人が参加した（Web会議含む）。
- 問題解決コースにおいて、修了生によるティーチングアシスタント制度を導入、修了生が、受講生への教育支援を行った。

### (2)修了生による活動：

- 教員を招いての修了生による現地活動報告会を計3回実施。
- ASUISHI関西支部会、関東支部会、山陰地方会など、地域ごとの勉強会や交流会が行われた。

### (3)情報交換・ネットワーク活動：

- 医療の質・安全学会学術集会に合わせ、修了生の交流会を開催。
- 定期的なASUISHIニュースの発行、SNS（ASUISHIコミュニティ）の更新・投稿、メーリングリストによる情報交換や質疑応答などが現在でも盛んに行われている。

### 展望

- ◆名古屋大学は、当事業を継続していく。
- ◆今後、修了生らが拠点となり、日本の医療現場に、品質管理技術に支えられた患者安全、感染制御が展開されていくことが大きく期待される。
- ◆学術活動、施設間の連携、ベンチマーク活動などが、さらに活性化していくことが予想される。



M&Mカンファレンス 修了生Web参加（2018年10月2日）



ASUISHI交流会@第13回医療の質・安全学会（2018年11月25日）



2期生 現地活動報告会（2017年7月1日）

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：新潟大学

事業名称：発災～復興まで支援する災害医療人材の養成

－災害・復興を科学しリーダーとなる次世代高度医療人材の養成、災害教育カリキュラムの普及－

**事業概要**：全国で育成の必要性が叫ばれている高度災害医療人材、すなわち「超急性期から亜急性期、慢性期、復興期まで災害医療の全時相を熟知」し、医療職種はもちろん、他職種・行政機関とも組織横断的に連携して「避けられる災害死」「災害関連健康被害」を最小限に食い止めるマネジメント力を有する人材育成プログラムを実施する。対象者は「初期研修修了後の医師」を対象としたコースと、「他職種（医療従事者、行政担当者）」を対象とするコースを設定し、両コースに共通のコーディネーター研修を設定し、組織横断的連携体制の構築を学ぶ。平時の備えから実践まで全国地域のリーダーとなる高度災害医療人を育成、併せて教育カリキュラムの普及を目指す。

課題

- > 災害医療は超急性期に留まらず、亜急性期、慢性期、復興期に及ぶが、DMATなど超急性期の技術的な研修しかないのが現状
- > 災害の全時相を俯瞰して医療体制を構築できる指導的医療者の養成が急務
- > 医療職種に留まらず、他職種、行政機関とも組織横断的に連携できるマネジメント力を備えた人材の養成が必須

対応

- > 超急性期から亜急性期、慢性期、復興期まで、災害医療の全時相を熟知し、医療職種だけでなく、他職種・行政機関とも組織横断的に連携して「避けられる災害死」「災害関連健康被害」を最小限に食い止めるマネジメント力を有する次世代高度災害医療人材養成プログラムの構築とその養成を行う。

事業内容



成果

- > 災害全時相に特有な医療の問題点を予測し、行政と連携してより実効力のある解決方法を提案できる次世代高度災害医療人を平成31年度末に8名を養成するほか平成27年度以降年間72名のプロバダー、インストラクターの養成が可能となる。
- > 「来たるべき災害」への関心と知識を新潟県内全域で構築し、全国都道府県にとってもモデルとなる、災害医療教育活動体制の構築が可能となる。

効果

- > 本事業により国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センターと連携し、全国に災害医療をリードする人材養成とそのカリキュラムの普及を継続的に行う体制が整備され、常に時代のニーズにあった最先端の高度災害医療人の継続的養成が可能となる。
- > 新潟県の参画による災害医療教育活動モデル構築により、全国自治体への波及効果が期待できる。

国立大学が果たす卒業後教育カリキュラム 社会で活躍する人材の育成 キャリア支援  
災害医療日本初の「履修証明プログラム」開始 さらに「社会人修士課程」へステップアップ



e-Learningの活用  
→全国から履修可能に！

働きながら学ぶ  
社会人のキャリア支援

全国唯一の災害医療  
履修証明プログラム  
キャリアパス形成支援

多職種連携による実際の訓練・セミナー開催

災害急性期から慢性期・復興期までをカバー  
災害に関わる様々な職種合同での勉強  
「医療」から「保健・福祉」「行政」まで  
災害時要支援者への対策  
特殊災害・被曝医療  
日本初！  
災害医療教育の全てをワンパッケージに！

## 事業成果

「プランは現実へ」

- ・各コースに全国から履修生が集結→国内外の実災害派遣・専任教官着任等 災害医療専門家キャリアの実現
- ・新しい災害医療の学習モデルプログラムとして全国に認知→全国各地の大学・機関で採用
- ・大学院での研究者の育成の開始 ・日本災害医学会の高いプログラムと連動→D-PORTの普及
- ・自治体との連携モデルの構築(新潟県と新潟大学で災害医療教育の連携体制の確立)
- ・災害医療教育全体が「多職種連携・災害全時相」への転換 ・e-learningコンテンツの共有開始(標準的プログラムへ)

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：近畿大学（連携大学：京都大学、大阪市立大学、関西医科大学、旭川医科大学）  
 事業名称：災害医療のメディカルディレクター養成

取組概要：我が国では災害医療に多角的な視点から対応できるメディカルディレクターの人材養成が特に不十分である。その結果、大災害時には被災地で地域全体の医療の流れを指揮する機能の担い手がおらず混乱が生ずる。嵐の後はその種類の災害に備えが集中するが、異なるタイプの災害には備えができていないという歴史を繰り返している。この事業では平時から救急医療に関する疫学的分析等を通じて、地域の特徴や問題点を明らかにして、種類の異なる災害に対して医療ニーズを把握して医療資源の配分や環境整備がマネージできる人材を継続的に養成するものである。同時に、それを支援する人材も合わせて養成する。災害医療の多様性を考慮して、このような人材開発を、異なる使命をもった大学や、国情の異なる複数の国の間で、共同で推進するものであり、プレホスピタルの臨床研究で連携が進んでいる各大学やアジア諸国とのリンクを生かして進めるものである。

## 計画（申請時ポンチ絵）

### 国際連携体制を生かした人材養成システム

多彩な災害ケースに対応：異なる事情体験を生かした

平時の救急医療とのリンク：疫学研究

相互支援が可能な体制：隣国のリーダー、顔が見える関係

## 取組 教育研修

ディレクターレベル＋多職種融合の人材養成

ディレクターコース 54人

多職種融合コース 245人

## 実践的研修を継続開催

ラリー1055人、stepコース617人、被ばく医療研修369人等

ホームページでの発信164回、facebook発信231回  
 最もアクセスのあった教材 18391アクセス等

卒前カリキュラムへの浸透

医薬連携 医学部＋薬学部15コマ必修 250人

災害と医療、スマホを使用した実習導入

## 取組 国際連携



国際救急災害シンポジウム開催（毎年）計 418名参画



韓国での成果発表



台湾での成果発表

## 終了後の取組

### 国際共同研究

Resuscitation 2017; 111:34-40  
 Resuscitation 2018; 125:他 発信

### 国内でも研究会が自立

科学研究費助成事業応募  
 国際共同研究加速基金  
 （国際共同研究強化（B））

### 教育システム

eラーニングシステム

履修証明プログラム

実践的研修の継続

NPO組織等でコース  
 継続開催支援

大学卒前カリキュラムコース定着  
 スマホを用いた実習定着

2019年～ アスリート向け災害緊急対応

継続

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：京都大学

事業名称：京大で臨床研究力／医学教育力を強化する！

取組概要：本事業では臨床医の臨床研究デザイン力と臨床医学教育力の開発を目指し、その強化プログラムを構築する。臨床研究分野では、臨床医を対象に、臨床研究デザイン学をはじめ、疫学・統計学・医療倫理・医療経済などのコースを提供する。疾病の診断・治療、患者QOLなど現場の問題解決に直結するエビデンスの創出と共に、臨床研究マインドに基づく観察力と思考力を備えた診療力の高い次世代臨床医を養成する。臨床医学教育分野では、指導医を対象に、医学教育学の主領域であるカリキュラム開発法・教育法・評価法のコースを提供する。医学教育学のエビデンスを引用し、現場の医師との対話を大事にし、ニーズにあった教育環境を構築できる指導医を養成する。両プログラムは組織マネジメント能力の涵養を共通基盤とする。また、診療に従事しながら受講できるよう、遠隔教育と京都大学での参加体験型学習を組み合わせ、電子ポートフォリオによる学習サポートも実施する。

## 臨床研究デザイン力強化プログラム

### 【受講生のアウトカム】

- ・高いコース修了割合（41人中36人 88%）
- ・全修了生における個別での研究プロトコル立案の達成
- ・プログラムの課題からの多数のエビデンス発信  
(EditorへのLetter出版、学会発表、原著論文出版)
- ・修了生からのファシリテータ輩出
- ・大学院進学者の輩出(2名)

### 【本事業による成果物】

- ・臨床研究実践のための系統的な学習資料の開発
  - 京都大学社会健康医学系専攻の多分野・医学教育コースとの連携による多彩な内容
  - 臨床を離れずに継続可能な遠隔学習主体
  - エビデンス発信に直結する参加型授業によるモチベーション維持
- ・遠隔学習のためのシステム整備

### 【自己評価項目】

- ・受講生対象のアンケート調査（毎月、コース修了後）
- ・受講生の成果物の評価

### 【評価後の改善】

- ・学習資料のブラッシュアップ
  - 理解度の向上・満足度の向上
  - プログラム内での実績発信の促進
- ・修了後のフォローアップ体制の強化
  - 希望者に対する継続指導
  - ファシリテータとしての学習機会の提供
  - キャリアパス相談・大学院への進学支援

## 臨床医学教育力強化プログラム

### 【受講生のアウトカム】

- ・海外の医学教育修士課程へ進学(1名)
- ・本邦の医学教育部門の大学院生や研究員生の輩出(5名)
- ・本プログラムへTAとして継続的に関与(20名)
- ・所属機関において医学教育に関連する指導者養成に携わる(6名)

### 【今後の取組】

- ・受講料を徴収する形で本プログラムを継続
- ・広く社会へ発信(書籍出版予定)
- ・発展的内容を含むアドバンスコースを開催予定

### 【本事業による成果物】

- ・医学教育のエビデンスを引用し、現場で教育方法・評価方法・カリキュラム開発法を提案、計画、実施できる医師を養成
- ・修了生の所属機関において医学教育に関する組織改革に貢献
- ・遠隔学習のためのシステム整備

### 【自己評価項目】

- ・授業毎のアンケート調査
- ・修了生のサイトビジット
- ・修了生・同僚へのヒアリング調査
- ・講師・スタッフ内での検討会議
- ・外部評価

### 【評価後の改善】

- ・学習資料のブラッシュアップ
  - 学外、多様な専門分野の有識者を招聘
- ・修了後のフォローアップ体制の強化
  - キャリアパスに関する進路指導
  - 大学院の進学支援情報提供

- 【社会への情報発信】ポスター・パンフレット等の発送（研修病院・大学等）、ホームページの更新、週間医学界新聞への投稿 等

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：琉球大学  
事業名称：臨床研究マネジメント人材育成

取組概要：臨床的疑問を臨床研究で解決できる医師、他職種連携をベースに医療機関全体の研究マネジメントにより研究の質(被験者保護と信頼性)の担保が可能な医師と医療従事者を育成するために大学院「臨床研究教育学講座」・「臨床研究インテンシブフェローシップ」コース・附属病院内「臨床研究教育管理センター」を設置する。

## 琉球大学大学院医学研究科・医学部附属病院と県内基幹病院

### 臨床研究教育学講座 病院勤務のまま通学（博士、修士）

- 研究デザイン、データ管理、解析、論文作成
- 統計講義
- 研究合宿（2回/年）
- 博士 30名
- 修士 12名(6名修了) \*2019年4月現在
- <職種>医師・薬剤師・看護師・放射線技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

### 琉球大学先端医学研究センター 臨床研究総合支援部門 (臨床研究教育管理センター)

- 大学院生、受講生への研究支援と継続的指導
- 教育プログラムの作成と運営
- 研究の品質管理・臨床研究法への対応
- データセンター
- 生物統計家（生物統計分野）
- 臨床研究出張カンファレンス@連携医療機関（42名）
- 研究倫理専門家

### 臨床研究インテンシブフェローシップ 総合診療後期研修プログラム 短期集中コース

- 臨床研究インテンシブフェローシップコース(4(回/年)\*2年)(計61名)
- 臨床研究ワークショップ(初級1.5日・標準5日)(計260名)
- 臨床研究の日
- 地域医療機関の専門研修プログラムとの連携(12名)
- 質的研究セミナー・ワークショップ
- 生物統計(輪読会・講演会・講習会)コース(計100名)
- 医療統計ハンズオンセミナー(130名)
- 教育シリーズ(100名)
- 臨床研究教育レクチャ・教育シリーズ(1320名)

2014-2019 本事業へ県内外より約2700名が参加・約30件の研究を支援

## 琉球大学における臨床研究教育プログラム(年間を通して11コースより構成)

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
基礎	1. 臨床研究教育レクチャ(研究の始め方・臨床研究法・新倫理指針 2回/年) 3. 臨床研究の日(臨床研究のイロハ：1h/月)			2. 琉球大学-東京慈恵会医科大学 共催シンポジウム(若手臨床研究者のお話) 臨床研究ワークショップ(臨床研究の基礎：1.5days)
標準	5. 生物統計学・疫学輪読会	6. 生物統計学・疫学講習会チュートリアル	4. 生物統計学・疫学講演会(最前線の疫学研究) 7. 医療と医療者教育における質的研究のためのプロトコル作成とSCATのセミナー・ワークショップ(2日/年)	
応用	8. 臨床研究ワークショップ(臨床研究の模擬体験：5日)		9. ハンズオンセミナー(医療統計基礎 2回/年)	10. インテンシブフェローシップ(臨床的疑問を臨床研究で解決：4session(1.5日)/年 *2)
	11. 地域医療機関の後期研修医を対象とした専門研修プログラムとの連携(4週間/人) ※1回/ヶ月のペースで研究ミーティングを実施			

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：金沢大学（連携大学：富山大学、福井大学、金沢医科大学）  
事業名称：北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン

## 取組概要

本プランは北陸の医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）が地域医療機関、研究機関、自治体等と連携して実施する。①本科コース（認知症チーム医療リーダー養成）を中心に、②インテンシブ研修コース（地域認知症専門医師研修）、③スペシャル研修コース（認知症・神経難病の臨床病理研修、地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修など）、及び④スーパーコース（認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育）からなる。本科コースでは、高度の知識・技能を有する認知症チーム医療リーダー医師養成、研修コースでは、地域医療機関を活動拠点とする医師の認知症専門研修（インテンシブ）と認知症・神経難病の臨床・病理研修や地域フィールド研修などの特色のある領域の短期研修（スペシャル）、スーパーコースでは、卒前・卒後一貫教育により高度な研究力を有する認知症スーパープロフェッショナル医養成を行う。

### ①認プロ教育コース履修者の受け入れ

	大学合計
金沢大学	47名
富山大学	12名
福井大学	12名
金沢医科大学	11名
合計	94名

平成31年3月1日現在

### ②認知症メディカルスタッフe-learning講座の提供と受講者の受け入れ

職種	受講者数
看護関係	1,483名
介護関係	64名
検査関係	26名
リハビリテーション関係	52名
薬剤師	32名
ソーシャルワーカー	21名
その他(介護職員・研究者等)	61名
合計	1,739名

平成31年3月1日現在

### ③デメンシアカンファレンス



・月1回、計48回開催  
・参加延人数…2,397名

### ④認プロFD講演会



第20回認プロFD講演会  
(H30.11.6)

・計21回開催  
・参加延人数…867名

### ⑤認知症チーム医療・ケアセミナー&地域連携・多職種ワークショップ



第4回認知症チーム医療・ケアセミナー&第4回認知症地域連携・多職種ワークショップ  
(H30.12.11)

・計4回開催  
・参加延人数…386名

### ⑥キャリアアップ支援セミナー



第4回キャリアアップ支援セミナー  
(H30.11.20)

・計4回開催  
・参加延人数…181名

### ⑦市民公開講座の開催



平成27年11月22日  
第2回認プロ市民公開講座  
「みんなで知ろう若年性アルツハイマー病」(福井)

・計4回開催  
・参加延人数…約1,350名

### ⑧シンポジウム等の開催



認プロ国際シンポジウム(第36回日本認知症学会学術大会とのジョイントシンポジウム)(平成29年11月26日、金沢)

・計6回開催  
(国際シンポジウムを含む)  
・参加延人数…604名

### ⑨石川県立看護大学(認知症看護認定看護師教育課程)へe-learning講義及び対面講義の提供



石川県立看護大学認知症看護認定看護師教育課程への認プロe-learning講義科目(計29コマ)を提供し、4名の担当教員が対面講義を実施(平成29年度～)。

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：信州大学（連携大学：札幌医科大学、千葉大学、東京女子医科大学、京都大学、鳥取大学）  
 事業名称：難病克服！次世代スーパードクターの育成（NGSDプロジェクト）

取組概要：稀少かつ遺伝要因によるものが多い「難病」に、オールラウンドな対応ができる医師を育成するためのプロジェクトである。医員としてOn the jobトレーニングを軸に1年間学ぶ「専攻医コース」、短期間または定期的に学ぶ「インテンシブコース」により、次世代シーケンス、遺伝カウンセリングを含む専門診療を担う医師を育成した。

**難治性疾患(難病)とは？** 症例数が少なく、原因不明で、治療方法が確立しておらず、生活面への長期にわたる支障がある疾患

**現状と問題**

**【ニーズ】**

- 多臓器にまたがる疾患が多い
- すべての年代にわたって医療支援が必要な疾患が多い
- 遺伝子情報による個別化医療

**【実情】**

- 少なくとも70%が遺伝性疾患
- 臓器別診療体制では不十分
- 多領域にまたがる横断的研修システムが未確立

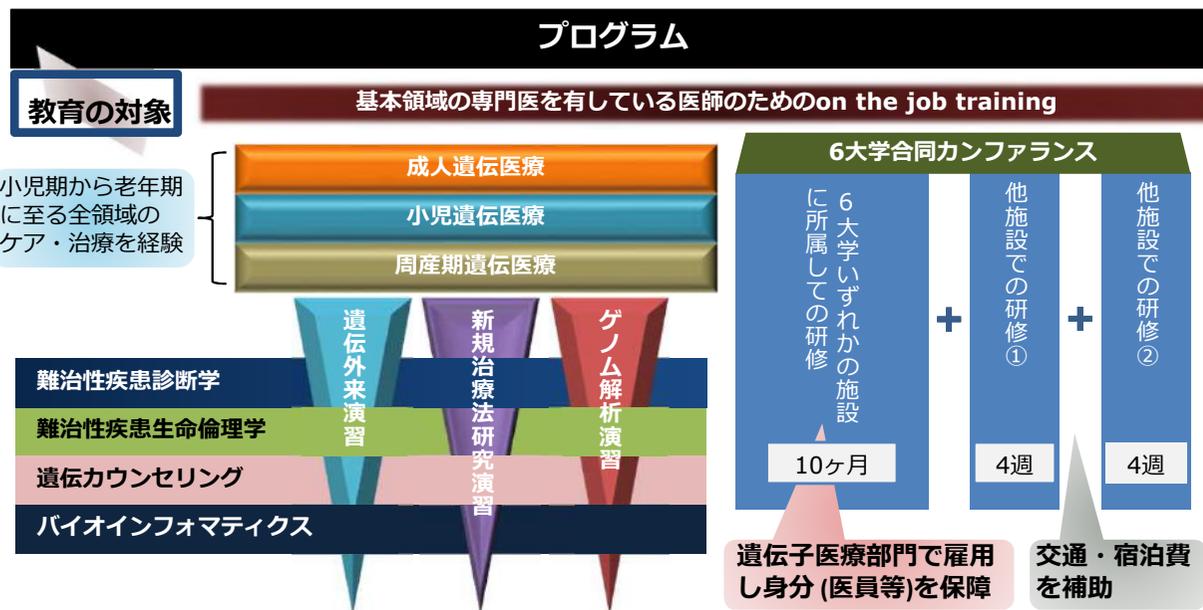
**求められる課題**

① 難治性疾患診断  
 遺伝学的検査の実施、新規診断法(次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析など)による診断精度の向上

ゲノム時代の難治性疾患マネジメントを担う  
**オールラウンド臨床遺伝専門医**  
 の育成・普及

② 遺伝性難病治療開発  
 新規治療薬の開発、医療機器の開発

③ 難治性疾患療養支援  
 難病患者の療養環境の整備・支援、家族への対応(遺伝カウンセリング)



信州大学  
 札幌医科大学  
 東京女子医科大学  
 千葉大学  
 京都大学  
 鳥取大学

密な大学間連携

全国遺伝子医療部門連絡会議を通じて成果を全国へ展開

ヒトゲノム解析の臨床応用  
 がんセンターとの連携、生命倫理チーム遺伝医療、遺伝学的検査  
 遺伝性神経筋疾患の遺伝医療、医師主導治験  
 多発性内分泌腫瘍症などの遺伝性腫瘍  
 包括的遺伝子診療、難病支援、治療開発研究

連携校の特色を生かした横断的教育体制の構築

**成果**

**事業継続！&発展！**

専攻医コース23人  
 インテンシブコース46人

質の高い徹底したOn the job trainingの有用性！  
 遺伝カウンセリング、患者マネジメント、次世代シーケンス

遺伝医学関連大学教員4人  
 大学病院基盤診療科で遺伝医療に関与多数  
 地域中核病院基盤診療科で遺伝医療に関与多数

臨床遺伝専門医研修の進展(6人合格)  
 卒業生による卒業生のための「NGSDの会」結成

遺伝性疾患(難病)、がんゲノム医療(パネル検査、遺伝性腫瘍症候群)、周産期遺伝医療を含むあらゆる診療分野における遺伝医療・ゲノム医療を推進する臨床遺伝専門医のニーズの高まり！

連携校で医員枠の継続確保  
 全国遺伝子医療部門連絡会議の協力を受け連携校募集

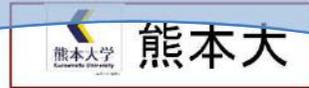
# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：熊本大学（連携大学：長崎大学、岡山大学、金沢大学、新潟大学、千葉大学、京都大学）  
 事業名称：国内初の、肝臓移植を担う高度医療人養成 - 六大学連携プログラム -

全国へ波及しうるモデルとして、6大学（千葉、新潟、金沢、岡山、長崎、熊本）が、指導的施設（京都大、国立成育医療研究センター）とともに教育体制を作り、所属する若手外科医、病理医、看護師を対象に、他施設での手術などの実務実習や動物を用いた演習、web講習会などを通し、肝移植外科医、病理医、コーディネーターを育成する。

## （研修指導施設）

- ・京都大
- ・国立成育医療研究センター



育成事業実績	
各コース他施設実習	延べ99回
ブタ手術実習	9回
講演会・研修会開催	8回
Web病理検討会	27回
コーディネーター研修会(含web)	17回
HP教材/冊子教材/論文発表	33/2/3
学会研究会共催	30企画



ブタを用いた手術実習

設定目標		達成度
外科医育成	術者増 $\geq$ 1/施設	○
	第一助手増 $\geq$ 3/施設	○
移植後1年生存率各施設 $\geq$ 全国平均		○
実施講習会等への該当履修生参加率 $\geq$ 80%		○
連携認定施設の脳死肝移植への関与 $\geq$ 1/年		×
肝移植病理医増 $\geq$ 各施設1名		△*
コーディネーター増 $\geq$ 各施設1名		○

\* △: 病理医が肝移植病理診断に関与する施設では目標達成

各コース (履修修了 人数)	履修後の現状	人数
外科医 (14名)	大学で肝移植に従事	9名
	肝胆膵外科に従事	2名
	移植関連留学	3名
	(14名中 大学教員)	(8名)
病理医 (8名)	臨床肝移植病理に関与	7名
	(8名中 大学教員)	(7名)
コーディネーター (8名)	大学病院でCo業務専従	3名
	Co業務兼務	4名



事業終了後： 外科履修生継続（手術実習、動物実習、web症例検討会など）。現育成連携体制を維持。  
 日本肝移植学会への、教育システムや資産の移譲を検討。

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：慶應義塾大学（連携大学：岩手医科大学、東京医科大学）  
事業名称：領域横断的内視鏡手術エキスパート育成事業

取組概要：領域横断的な基礎知識と技能を身につけ、プランニングから一貫して安全・確実な手術が可能であり、かつ国際的に活躍できるグローバルな視野を持ったリーダーを育成する。技量に応じた教育のため、専修医の実経験年数に応じたBasicコースとAdvanceコースを設置し、段階的に高難度手術へ移行するプログラムを構成した。

### Basicトレーニングコース

1. デバイス開発の基礎から基本技術の習得  
**慶應義塾大学**  
内視鏡外科トレーニングセンター  
医学部 一般・消化器外科  
婦人科  
泌尿器科  
解剖学教室  
低侵襲療法研究開発部門  
医学教育統括センター  
理工学類  
システム・デザイン工学
2. 実地研修  
大学・関連施設  
東京医科大学付属八王子医療センター  
特色  
数値→経験まで多彩な段階性基盤とした豊富な臨床対象事例
3. 臓器横断的高難度手術に対する腹腔鏡技術の習得  
**慶應義塾大学**  
内視鏡外科トレーニングセンター  
プログラムの実際  
1. 内視鏡デバイスの基礎的知識習得（理工学類）  
2. 3Dシステムを用いたCadaver手術による手術手技の評価とFeedback（解剖学教室）  
3. 術前画像シミュレーションの応用（一般・消化器外科 → 各科）  
4. 実践手術トレーニング  
～各診療科における高難度内視鏡手術の実際～  
特徴  
各領域で腹腔鏡手術の世界最先端機関
4. 世界基準の技術習得・国際的な若手人材交流  
IRCAD  
Strasbourg  
Taiwan  
特徴  
既卒の海外プログラムとの連携

### Advanceトレーニングコース

1. 内視鏡デバイスの基礎的知識習得（理工学類）
2. 大動物手術トレーニング（低侵襲療法研究開発部門）
3. Cadaver手術トレーニング（解剖学教室）
4. 術前画像シミュレーション（一般・消化器外科）
5. 実践手術トレーニング

新専門医制度との関係

2017年度 Basicコース年間スケジュール

領域	Basic	Advance
上部	8	5
大腸	13	12
肝臓	11	11
婦人科	3	4
泌尿器	9	5
小児	-	5
計	44	42

到達目標

1. 内視鏡手術の基本技術を網羅的に理解し、実践できる。
2. 内視鏡手術中のトラブルに適切に対処できる。
3. 内視鏡デバイスの特徴と現在の問題点を理解し実践に活かしながら、日本発の新規デバイス開発を含めた将来の新たな展開を提案可能な知識を身につける。
4. 肝臓・全胃・婦人科・泌尿器科を含めた高難度内視鏡手術の適応とトラブルを理解し、高難度手術を安全に実践できる。
5. 高難度内視鏡手術中のトラブルに適切に対処できる。
6. グローバルな視野を持って、指導的立場で今後の本邦の内視鏡手術の発展に貢献することができる。
7. 海外の内視鏡外科と密な交流を持ち、シームレスな連携を臨床・教育・研究の多方面で実践することができる。

### レクチャー

解剖からデバイスの基礎、実践ビデオまでを網羅

ロボット工学  
エネルギーデバイス  
シミュレーション

肝臓  
上部消化器  
大腸

泌尿器科  
婦人科  
小児外科

### Cadaver トレーニング

Fresh Cadaverを用いた2回実施

### da Vinci 実習

シミュレーター・大動物を用いた実践的ダビンチ実習を実施

### Dry Box 結紮/縫合

タイムトライアルを通じた達成度などで技能評価を行う

Session2 Target : 1:30	順位	1回目	2回目
A	2,27	1:19	
B	0:50	1:08	
C	1:14	1:19	
D	2:22	1:45	
E	1:20	1:35	

Session3 Target : 1:00	順位	1回目	2回目
A	1:32	1:53	
B	1:23	0:55	
C	1:36	0:59	
D	0:58	0:47	
E	1:11	1:00	

Session4 Time trial	順位	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
A	0:53	1:01	0:36	0:37	0:47	
C	1:47	1:25	1:02	1:23	0:37	
D	1:07	1:04	0:53	0:42	0:51	
E	1:11	time over	1:11	1:15	0:54	

### 大動物実習

年3回実施、異なる5領域を網羅する

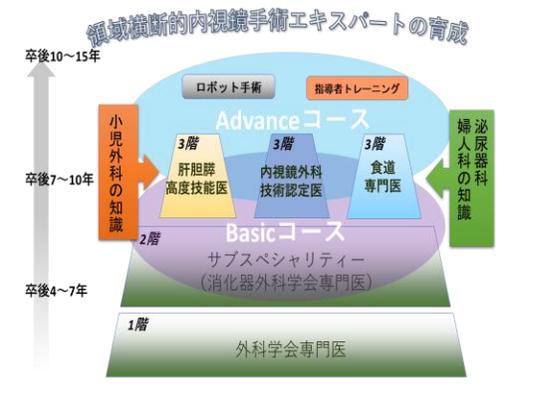
### 領域横断的臨床実習

異なる3領域を横断的に体験する

【一般・消化器外科】5 cases  
・胆嚢摘出  
・幽門胃腸切除  
・大腸（直腸）切除  
・肝切除または脾体尾部切除  
・ヘルニア手術

【泌尿器科】3 cases  
・腎臓摘出術  
・副腎摘出術  
・拡大前立腺摘出術

【婦人科】5 cases  
・子宮全摘または悪性子宮手術  
・子宮筋腫核出術  
・拡大子宮摘出術  
・卵巣摘出術  
・子宮外妊娠手術



- 2018/03/05 平成29年度 PROCESS年次報告会
- 02/19 平成29年度 ベンチマーク期末筆記試験
  - 02/17 第2回 da Vinciロボット手術実習
  - 02/09 第1回 da Vinciロボット手術実習
  - 02/06 第3回 結合結紮講習（タイムトライアルと評価）
  - 01/26 第2回 術前画像シミュレーション
  - 01/14 第3回 大動物実習
  - 12/08 第30回日本内視鏡外科学会総会・共催シンポジウム
  - 11/28 第2回 Cadaver実習
  - 11/25 第2回 大動物実習
  - 11/10 第2回 術前画像シミュレーション
  - 11/10 第2回 結合結紮講習
  - 09/22 講義 「腹腔鏡手術（小児外科）/一般知識・トラブルシューティング・ピットフォール」
  - 09/16 講義 「領域横断的内視鏡外科エキスパート育成事業プロジェクト連携推進セミナー」
  - 08/31 第1回 Cadaver実習
  - 07/17 第1回 大動物実習
  - 07/04 講義 「腹腔鏡手術（肝臓）/一般知識・トラブルシューティング・ピットフォール」
  - 06/30 講義 「腹腔鏡手術（上部）/一般知識・トラブルシューティング・ピットフォール」
  - 06/27 第1回 結合結紮講習
  - 06/23 講義 「腹腔鏡手術（大腸）/一般知識・トラブルシューティング・ピットフォール」
  - 06/20 講義 「腹腔鏡手術基礎・機械・エネルギーデバイス」
  - 06/16 講義 「腹腔鏡手術（ヘルニア）/一般知識・トラブルシューティング・ピットフォール」
  - 06/09 講義 「腹腔鏡手術（婦人科）/一般知識・トラブルシューティング・ピットフォール」
  - 06/02 講義 「腹腔鏡手術（泌尿器科）/一般知識・トラブルシューティング・ピットフォール」
  - 05/19 講義 「デバイスの基礎」
  - 05/09 講義 「腹腔鏡手術基礎・体位・ポート」
  - 05/08 PROCESSキックオフシンポジウム開催

### 年次報告会

修了証とベストパフォーマンス賞を授与

受講生の評価と今後の展望

- ・筆記試験
- ・体外結紮縫合実技試験
- ・講習態度・出席率
- ・臨床実習の講師評価
- ・フィードバック回答数

実臨床へのアウトプットに寄与するか、事業自体の意義を評価する必要がある

今後の目標： NPO法人運営による独立採算 + 技術認定医制度との連携による公認教育事業への昇格化 + 国内外での教育プログラム移行

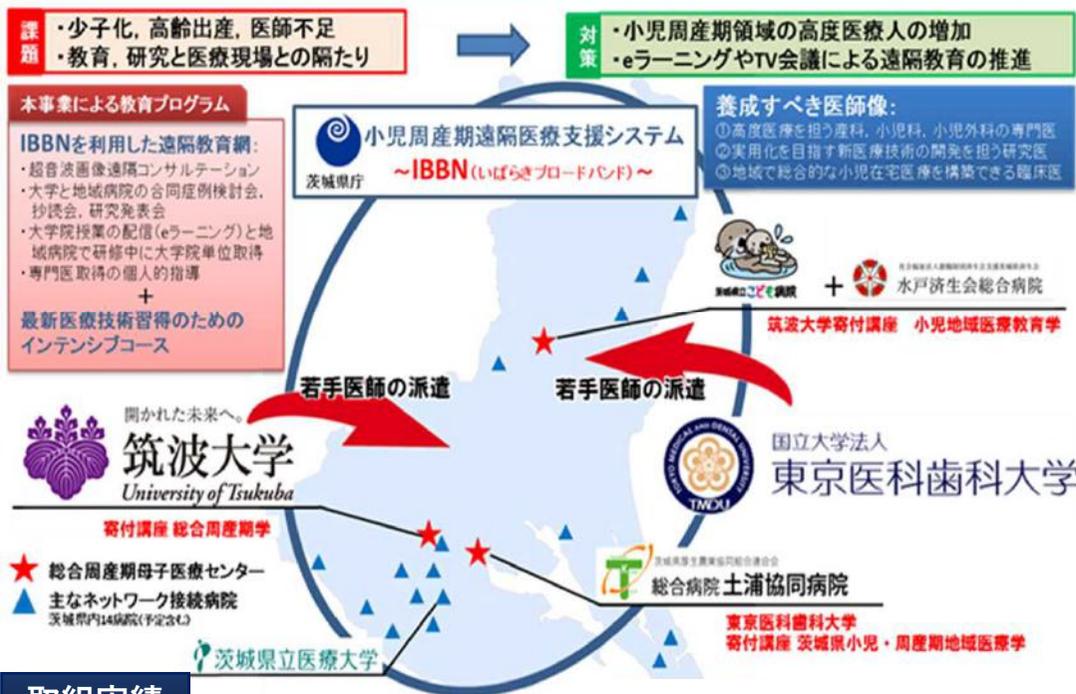
# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：筑波大学（連携大学：東京医科歯科大学）  
 事業名称：ITを活用した小児周産期の高度医療人養成  
 ～臨床研修と並行して進める遠隔教育プログラム～

## 取組概要

小児周産期医療に従事する研修医を対象に、茨城県内に設置された高速・大容量の情報通信ネットワークを活用した体系的なeラーニング講座とインテンシブコースによる技術指導を中心に据えた教育プログラムにより、①高度医療を担う産婦人科、小児科、小児外科の専門医、②実用化、産業化を見据えた新しい医療技術の開発や医療水準の向上を目指す研究医、③地域で総合的な小児在宅医療を構築できる臨床医の育成を目指す。

## ITを活用した小児周産期の高度医療人養成～臨床研修と並行して進める遠隔教育プログラム～



## 取組実績

新規専攻医数	小児科：83名、産婦人科：54名、小児外科：5名
専門医取得者数	小児科専門医：73名、産婦人科専門医：50名 小児外科専門医：9名、周産期専門医：24名
学位取得者数	小児科：23名、産婦人科：50名、小児外科：2名
指導医の育成	新生児蘇生法インストラクター指導者：13名、周産期指導医：1名

臨床・研究両面からの小児周産期医療・小児在宅医療への貢献

## 取組内容

- ・eラーニングコンテンツの作成：240本
- ・ブロードバンドによるビデオカンファランスシステム：年間30回以上
- ・インテンシブコース  
 新生児蘇生法講習会：91回  
 小児科短期集中インテンシブコース（小児科ブートキャンプ）：15回  
 多職種による周産期急変対応シミュレーション：3回  
 小児在宅医療シンポジウム：2回 など

### 周産期急変対応シミュレーション



800 g 相当の新生児 → シミュレータを用いた新生児蘇生演習

← 緊急救命室での母体緊急帝王切開演習

### 小児超音波ハンズオンセミナー



若手指導医が中心となり企画・実行 → 研修医教育とともに指導医も育成

## 補助期間終了後の取組

- 1) 成育支援室の継続
- 2) ブロードバンドによる病院間連携とeラーニングによる遠隔教育の継続
- 3) インテンシブコースの継続
- 4) 新たな展開  
 小児周産期災害対応人材養成コースの創設  
 多職種連携に拡大した小児周産期医療教育、小児在宅医療教育の実践  
 適切な労務環境を維持した人材育成体制の確立

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：鳥取大学（連携大学：秋田大学、山形大学、大阪市立大学）  
 事業名称：重症児の在宅支援を担う医師等養成

取組概要：課題1.重症児の幅広い専門的知識と診療技能を身に付けた人材の育成→①大学院による専門医の育成、②インテンシブコースによる地域人材の育成（医師、看護師、コーディネーター他）、課題2.NICUから退院までのスムーズな院内連携→院内ネットワーク構築、課題3.地域連携→地域支援ネットワークの構築

## 鳥取大学・大阪市立大学

### 大学院コース

- ◆専門的知識・技能の習得
- ◆マネジメント能力を習得
- ◆各大学の専門領域をe-learningで学習  
 鳥取大学：脳障害の評価と治療  
 大阪市立大学：代謝異常の治療  
 山形大学：脳形成異常の解析  
 秋田大学：脂質代謝異常の解析

## 鳥取大学・連携大学

### インテンシブコース

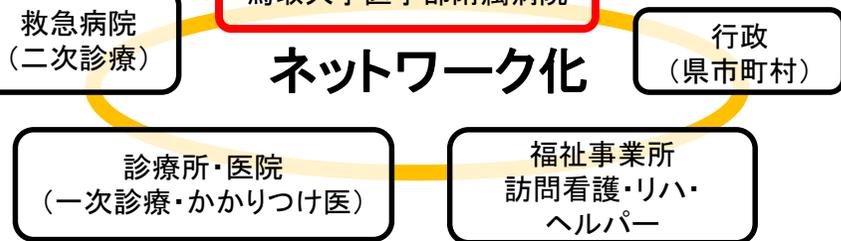
- ◆地域で働く人材育成（医師、看護師、コーディネーター、他）
- ◆e-learningによる自主学習
- ◆TV会議システムを使った遠隔講義
- ◆課題解決に向けたグループ学習
- ◆シミュレーターを使った実技講習
- ◆施設研修



連携

鳥取大学医学部附属病院

ネットワーク化



人材養成

重症児が家族と安心して暮らせる地域社会の実現及び全国波及

成果

- ◆幅広い専門的知識と高度な医療技能を習得した小児科医の養成（大学院生5名）
- ◆インテンシブコース：多職種・多機関と連携できる医師、看護師、コーディネーターの養成（修了生501名）
- ◆4大学で院内ネットワーク会議を毎月開催し、スムーズな退院支援を実施
- ◆4大学病院が各府県ごとに連携会議を通じて、地域支援ネットワークを構築

事業継続

- ◆大学院コース：2大学で継続
- ◆インテンシブコース：4大学で継続
- ◆院内支援ネットワーク会議：4大学で継続
- ◆地域連携ネットワーク会議：4大学で継続

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：東京医科歯科大学（連携大学：東北大学、新潟大学、東京歯科大学、日本歯科大学）  
 事業名称：健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム

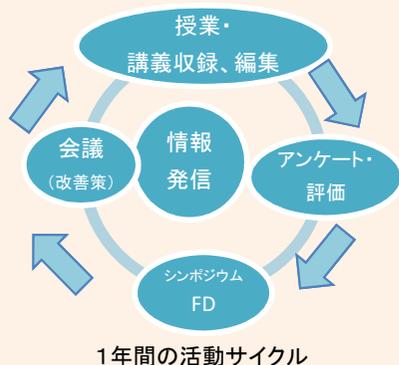
**取組概要** 健康長寿社会の達成に貢献するためには多領域からのアプローチが必要であり、単一大学の教育資源だけではその全てを網羅することは困難である。本事業では5大学が国立私立の枠を超えてコンソーシアムを形成し、各大学の強みである教育資源を主にe-learningコンテンツとして蓄積・共有することで、健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療を担う人材養成の実現を目指している。蓄積した共有教育資源の全国展開を行い、将来的には歯学教育の高度化、標準化に貢献することを目標としている。

## これまでの取組内容

### 各大学 独自のコースを新設

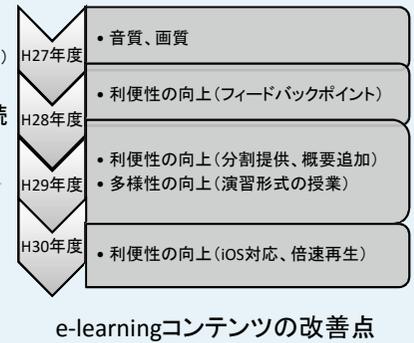
- 東京医科歯科大学
  - ・長寿口腔健康科学コース
- 東北大学
  - ・異分野連携イノベティブ歯学展開コース
- 新潟大学
  - ・口腔機能管理学コース
- 東京歯科大学
  - ・地域社会に学ぶ新たな歯科医療プロフェッショナルコース
- 日本歯科大学
  - ・地域連携ケアコース

コア科目と一部の独自科目  
**5大学で共有**  
 (e-learning、授業生配信)



- 授業
  - 全大学で必修化
  - 出席率: 1授業以外90%以上 (H30年度)
- e-learningコンテンツ
  - 70編以上蓄積し、改善を継続
- 情報発信
  - 学会発表 11回
  - シンポジウム 2回
  - HP更新 42回
  - Facebook 80回
- 主催のイベント
  - シンポジウム 5回
  - 5大学合同FD 2回

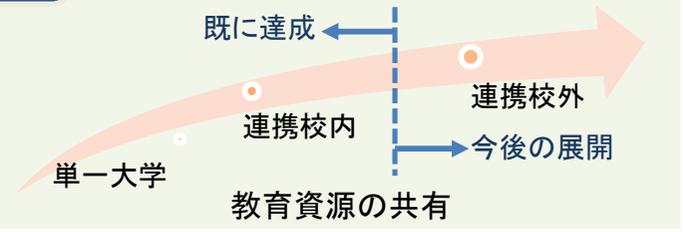
## 取組実績



- FD**
  - ・e-learningコンテンツ理論的背景および具体的ノウハウ
- 他大学対象アンケート**
  - ・10校を対象とした、全国展開を見据えた本事業についてのアンケート調査
- 自己評価シート**
  - ・共通フォーマットの自己評価シートを導入し、定例TV会議時の活動報告に利用
- FD**
  - ・本事業に蓄積された教育資源を用いて、コース再構築

## 補助期間終了後の取組

- 連携 校内**
  - ・必修授業としての実施を継続
  - ・授業共有を継続
  - ・情報発信 (HP、Facebook、学会) の継続
  - ・事業推進委員会の継続
  - ・名簿更新の継続、事務局の設置
- 連携 校外**
  - ・「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」との連携
  - ・病院歯科における卒後教育への展開を検討



# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム(2014年度選定分)」成果報告

歯学教育改革コンソーシアム: 北海道大学, 金沢大学, 大阪大学, 岡山大学, 九州大学, 長崎大学, 鹿児島大学, 岩手医科大学, 昭和大学, 日本大学, 兵庫医科大学, 東京大学, 国立長寿医療研究センター, 東京都健康長寿医療センター

事業名称: 健康長寿を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—

取組概要: 各連携大学において, 縦割りを排した新しい次元の医科歯科連携教育や在宅歯科医療教育を構築し, 医療支援歯学教育コースワークのカリキュラム必修化という観点で**90%超の均てん化**に成功した. 加えて適切な死生観に基づき, 患者の病床, 介護現場や終末期に寄り添える歯科医を養成するために, 東京大学の協力を得て死生学や地域包括ケアの教育を導入, 東京都健康長寿医療センター, 国立長寿医療研究センターの協力で認知症とその歯科的対応についての教育を強化した. さらに, 高齢者の「食」を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進できる歯科医師を育てる基盤を構築した.

## 課題

1. 歯科医師は患者の死や人生に寄り添うことに慣れていない
2. 健康な患者に通常行われる歯科的診断と治療が要介護者にそのままあてはまらない
3. 急性期病棟での多職種連携実習や在宅介護実習の教育の場が不足
4. 教育機会が不均等で共通教育ツールが不足
5. 周術期管理や要介護高齢者における歯科的介入を支える臨床エビデンスや基礎的知見が不足

### ①講義シリーズ(連携大学共通)

○口腔と全身健康の関わり(2単位), ○がんの化学療法や各種外科的介入等における周術期管理(2単位), ○老人介護施設や在宅介護医療における歯学教育, 死生学, 多職種連携, 地域包括ケア(2単位), ○死生学・認知症(0.4単位)

### ②シミュレーション・PBL演習

○全連携大学に要介護高齢者を模したシミュレータを配布, プレクリニカル演習を開発  
○老人介護施設見学や地域医療人材育成講座の地域医療実習を利用したPBL演習を提供する.

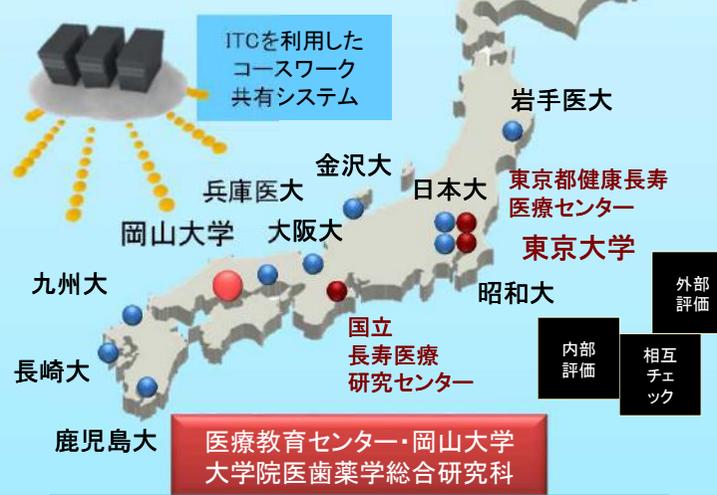
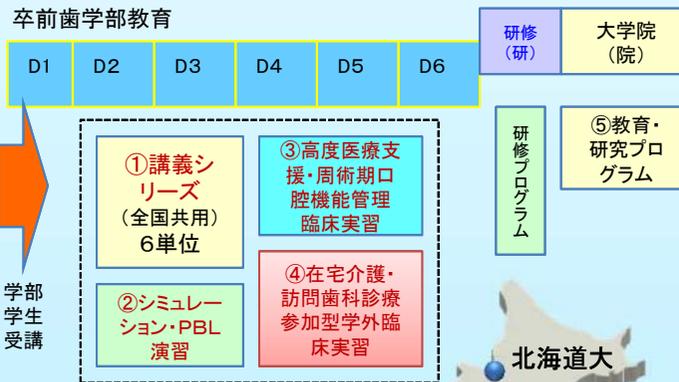
### ③高度医療支援・周術期口腔機能管理実習

○岡山大学病院周術期管理センターにおける多職種連携実習(右)  
○昭和大学病院の医歯薬保健学部合同病棟実習など



## 医療支援歯学教育コースワーク

(岡山大学, 連携大学, 協力施設)



歯学教育改革コンソーシアム: 11大学4協力施設

国立大学歯学部6校+医学部が併設されている全私立大学歯学部  
—教育効果の全国への波及、均てん化

## 解決策

1. 共同授業に死生学や地域包括ケアの概念の導入
2. 医学教育と歯科技術教育の融合, 患者の機能低下にあわせた介入の選択
3. 岡山大学, 連携大学, 協力施設が協力して, 急性期病棟における周術期管理や在宅介護臨床実習を提供
4. 岡山大学, 連携大学, 協力施設が協力して, 全国統一電子化授業ライブラリーを作成し, 共有
5. 教育を支える臨床研究能力の開発, 研究フィールドの確保

### ④在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習

○長崎大学の離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習, ○日本大学の摂食機能療法学学外実習, ○東京大学高齢社会総合研究機構 柏プロジェクト医療フィールド, ○岡山大学の老人介護施設や在宅訪問歯科診療参加型臨床実習(下図)等.



### ⑤高齢者の疫学研究フィールド

○東京大学の柏研究フィールド, ○大阪大学や東京都健康長寿医療センターのSONIC研究フィールド, 九州大学の久山町研究に歯科として積極的に参画し, 高齢者医療における多職種連携研究を進め, 健康長寿社会を担う医科歯科連携教育に反映した.